

## 秀 賞

### 上を向いてみたら

秋田県能代市立能代南中学校

二年 成 田 芽 吹

文武両道。中学生なら誰でも目指しているものだ。私もその中の一人。でも、勉強だって部活だって、うまくいかないときがある。中学一年の冬の私がそうだった。けれども、私は思いもよらないものから不思議な「ちから」をもらった。

それは、ある平日の夜のことだった。ピアノ教室の帰りで、辺りはとても暗かった。そのころ、部活ではうまくいかず、家に帰ってからの勉強はすぐに眠くなってしまふから、当然、テストの順位も下がってしまった、何もできない自分が納得がいかなかった。なんとかしなければと思うのだが、ますますできなくなる一方だった。

いつの間にか下を向いて歩くようになっていた。見えるのは、道に転がる石と、虫の死骸だけだった。まるで、私の心の中のようにだと思つと、体の内側からなんともいえない悲しみが込み上げてきた。

突然、地面がぱつと明るくなった。見上げると、まばゆい光を放つ、とても大きな月が出ていた。まるで、その場に月と自分一人だけが存在しているかのような気分になり、月の光に圧倒されて、周りが見えなかった。月の光に導かれるように、家に着くなり、私は荷物を投げ出し、バルコニーに寝そべ

り、ずっと月だけを見つめていた。

どのくらい時間がたったのだろう。気が付くと、月は黒い雲に覆われてしまつていた。空を見上げたのは久しぶりだった。幻想的な雰囲気包み込まれたまま、時間を忘れて、ずっと星を、空を、自分の上にあるものを見続けた。

月は、黒い雲に覆われながらも、出たり隠れたりを繰り返しながら光を放ち続け、星は微妙に違つていて、それぞれの色でほのかに光り、空はそれらの全てを見守っているかのように広く、大きかった。人間がつくることのできない自然に、とても大きく不思議な「ちから」をもらった気がした。

何がきっかけだったのかは覚えていないが、私は自分の部屋にもどつた。もう、遅い時刻になつていたと思う。けれども、勉強に集中できたし、久しぶりにぐっすり眠ることができた。人生には、たくさんの印象深いことがあるのだろうが、この日のことも、その一つになるに違いない。

この出来事で、気付かされたことが三つある。一つ目は、自分が下を向きすぎていたということだ。だから、気持ちまでネガティブになつていたのでと思う。考えすぎてしまつていたのかもしれない。二つ目は、上を向いたら発見できることがたくさんあるということだ。空の広さに比べて、自分はちっぽけに思えた。それが嫌だったから、やる気を出すことができたのかもしれない。三つ目は、私はもともと、星や月、空を見ることが好きだったのだということだ。心の余裕を失い、忘れてしまつていたけれど、気持ちは変わっていなかった。

「ちから」をもらつてから、できるようになったことがたくさんある。まずは、下を向いて歩かなくなった。少しずつ形を変える飛行機雲や、毎日「おかげさまで」と言ってくれるおじいさん、おばあさんの

笑顔、手入れされた木々からこぼれる木もれ日……。私を元気にさせてくれるものが、見えるようになった。

視線が上になると、やる気もアップし、もっと上を目指そうという気持ちもわいてきた。うれしかったのは、思い通りにいかないときほど「今のままでだめだ」と思うようになったため、勉強が苦にならなくなり、成績が上がつたことだ。部活動は、すぐに上手になれたわけではないが、自分の直すべきことを見つけて改善の努力をし、大会で良い試合ができた。

私に大きな成長をくれた星や月、空の自然の「ちから」には、感謝するばかりだ。これからも、くじけそうなどときには、あの夜のように不思議な「ちから」をもらいながら、ずっと空を見て過ごそうと思ふ。

しかし、少しずつ、それに頼らない自分に成長していきたい。「ちから」をもらった私には、新しい目標ができたのだ。自分らしい「ちから」をもつて輝き、以前の私のような下を向いている人や、困っている人、苦しんでいる人を照らし、助けてあげる人になること……。時間がかかり、達成は簡単ではないけれど、そして、まだ漠然とした夢でしかないけれど、そんな仕事に就くために、今を大切に、力いっぱい過ごしていきたい。

上を向いてみたら、私に「ちから」を与えてくれるものが、はるか彼方から私を見守つていた。そして、ずっと遠くに、私が目指す目標が、確かな光を放つて私を待っていてくれることを感じている。

#### 作文を書くに当たって

普段何気なく眺めている風景や、あたりまえにあるものが、大きなちからを与えてくれることがあります。また、視点を変えることで新たなものの見方があると気付くことがあります。そうした体験を伝えたくて、作文を書きました。読んだ人が、前向きな気持ちになり、何かを変えるきっかけの一つにしてくれたら嬉しいです。